

I 今年度の取組と自己評価

1 学習指導

① 教育活動の目標と方策

教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、授業規律を徹底させた教科指導を実践するとともに、他の教員との情報交換を行うことで「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための授業改善に取り組み、生徒の学力が確実に向上するよう万全を期す。

個に応じた指導を充実させ、生徒が自主的に毎日60分以上の家庭学習を習慣化できるよう導き、基礎的・基本的な学力の向上を図るとともに、教職員が生徒一人一人の進路希望や学力の状況を共有し、組織的に指導できる体制を確立させる。

また、体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動をとおり取り組み、生徒の健全育成を図る。

そのために、特別支援教育コーディネーターを中心として、HR担任、養護教諭及びスクールカウンセラー間の相互連携を強化して心の健康に対応し、情報を共有しながら相談体制を確固たるものとする。

校内の環境美化を推進し、美化・清掃意識の徹底を図る。

(1) 二、三年次においては都立高校学力スタンダード、一年次においては、新学習指導要領に示された、生徒が「何ができるようになるか」を具現化する指導を実践するため年間授業計画を作成し、週ごとの指導計画で適切な進行管理を推進する。

(2) ICT機器を活用した授業を促進するなど、生徒の興味・関心を高める指導内容・指導方法を工夫し、教員相互の研究授業及び研究協議を充実させて指導上の課題を共有し、職場の一体感を高める。

また、「東京都教育ビジョン（第4次）」（令和元年6月策定）及び「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進するため、生徒一人一台端末やスマートフォンなどの情報端末を活用し、生徒が自ら必要な情報を集めて課題を解決する力を身に付けられるようTEAMS（Office365）を用いてオンラインによる授業を定期的実施する。

(3) 読書活動の一層の推進とビブリオバトル校内大会の実施を経て都が主催する上位大会へ積極的に参加する。

(4) 習熟度別授業や少人数授業を拡充し、学ぶ喜び、成就感、達成感を体得させ、自主的に学習に取り組む態度を育成する。

② 自己評価

(1) 二、三年次においては都立高校学力スタンダード、一年次においては、新学習指導要領に示された、生徒が「何ができるようになるか」を具現化する指導を実践するため年間授業計画を作成し、週ごとの指導計画で適切な進行管理を推進した。

(2) ICT機器を活用した授業を促進するなど、生徒の興味・関心を高める指導内容・指導方法を工夫した。オンラインによる授業は実施しなかった。来年度はオンライン授業日を設定し、オンラインでの授業を行う。

(3) ビブリオバトル校内大会の実施を経て都が主催する大会へ参加した。

(4) 習熟度別授業や少人数授業を拡充し、自主的に学習に取り組む態度の育成を図った。

2 進路指導

① 教育活動の目標と方策

自らの生き方や働き方を視野に入れ、先行き不透明な時代を切り拓こうする意識の醸成と生徒自らが判断できるような適切な進路相談を実践する。3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるとともに、広い視野で社会を見る眼を育てる。生徒に対する働きかけを積極的に行い、インターンシップ等の充実を図る。

また、生徒の学力向上・進路実現のための充実した夏季講習週間の組織的・計画的な設定と実施、土曜講習、予備校講師による講習を実施し、第一志望をあきらめない生徒を育む。さらに部活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

- (1) 各学年の進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路実現への意識を高める。
- (2) サクセスプランニングを中心とした自己理解、職業観の育成、将来につながる科目選択指導を充実させる。
- (3) 進路相談部と各学年との連携を密にし、進路に関わる情報を迅速かつ的確に、生徒や保護者に提供する。
- (4) HR担任と生徒・保護者との三者面談を実施した結果の情報共有化を図り、生徒・保護者の希望を的確に把握して支援する。
- (5) 興味関心と将来に関わる題材の「課題研究」指導と研究内容・発表を充実させる。
- (6) 進路実現や自己実現につながる地域と連携した「人間と社会」を充実させる。

②自己評価

- (1) 学年ごとに進路ガイダンスを実施し、進路意識の向上を図った。
- (2) サクセスプランニングを中心に、将来を見据えた科目選択指導の充実を図った。
- (3) 進路相談部と各学年との連携について、次年度は拡大分掌会議を定期的に開くなどして一層の充実を図る。
- (4) 支援の必要な生徒に関しては、HR担任、特別支援教育コーディネーターを中心に養護教諭及びスクールカウンセラーを含めて支援体制の構築を図った。
- (5) 課題研究の発表会は、コロナ禍において一部オンラインを併用して行い、充実したものとなった。
- (6) 人間と社会において、今後コロナ感染症対策を講じながら充実を図る。
- (7) 今年度は、在京外国人生徒を初めて卒業させる年度であった。その生徒たちの進路志望の実現に向けて年次と進路相談部の連携の下、一定の成果を挙げることができた。

3 生活指導

① 教育活動の目標と方策

東京都生活指導統一基準を基に、挨拶の励行、ルールを守る、身だしなみを整える等の学校生活における基本的な生活規律を適切に指導し、規範意識と自律心を育む。

授業開始の時刻とともに授業を開始することなどをおして、授業にきちんと取り組む姿勢をつくる。

時間の切り替えと集中を徹底して指導し、家庭での60分以上の学習時間を確保できる生活サイクルを確立させる。部活動の活動時間については、最終完全下校時刻である午後7時を意識させる指導を徹底する。

生徒の問題行動等への対応においては、保護者や関係機関と連携や協力ができるサポート体制を確立し、生徒の健全育成を図る。

体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向け、学年を超えた連絡体制を構築するとともに、HR担任を中心にスクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

我々は教育のプロとしての誇りと自覚を基に、深い愛情をもって生徒一人一人の理解に努め、ならぬものはならぬのです、と毅然とした粘り強い指導を徹底する。

生徒に身に付けさせる規律・規範として以下の目標を確認する。

- 公共の場でのルールを守り、国際社会に通用するマナーを身に付ける生徒
- T P Oに応じた身だしなみや所作がきちんとできる生徒
- 相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒
- 時間を意識して行動する生徒

- (1) 学校内の決まりや指導方針を予め明示して生徒・保護者の理解を図り、特別指導基準の明確化と公正な運用により、人権に配慮した対応を徹底する。
- (2) 全ての教員の指導がぶれることなく、当たり前に行うべきことを徹底して実施する。
- (3) 時間を意識して行動できるようにするために遅刻指導、及び授業規律を確立する。
- (4) 登下校時の交通ルール、特に自転車通学者への道路交通法の周知及び遵守の徹底を図り、事故を未然に防ぐ。自転車損害賠償保険等への加入を生徒・保護者に周知する。また公共交通機関における車内マナーの遵守を周知・徹底する。
- (5) 人権尊重の精神を踏まえ、教師による体罰、暴言及び行き過ぎた指導を根絶する。
- (6) お互いに思いやる気持ちを醸成し、本校のいじめ防止基本方針を踏まえ、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む。

特別な支援、配慮を要する生徒に対しては、HR 担任と養護教諭、スクールカウンセラーとの相互連携をさらに強化し、保護者と密接な連絡を取り、個別支援計画を作成するなどの手立てを講じてその生徒にとって最適な支援を行う。

また、自殺対策基本法(平成 28 年 4 月一部改正)及び自殺総合対策大綱(平成 29 年 7 月閣議決定)に基づき、生徒の自死を未然に防ぐ手立てを講じる。具体的には、L H R の時間に各担任から生命尊重の話をしたり、「S O S の出し方」の V T R を視聴したり、第一学期の終業式において、校長講話に生命尊重についての話を盛り込むなどの対応とともに、各種相談窓口を印刷して全校生徒に配布する。

②自己評価

- (1) 特別指導基準の明確化と公正な運用により、人権に配慮した対応を徹底した。
- (2) ぶれない指導を徹底した。
- (3) 遅刻指導週間の実施など一定の成果を上げた。
- (4) 自転車通学者への保健加入について周知・徹底を図った。
- (5) 体罰、暴言及び行き過ぎた指導がないよう徹底を図った。
- (6) 特別支援会議を開いて個別の支援が必要な生徒への手立てを講じるなどの実践を行った。生命尊重について、折に触れて生徒への呼びかけを行うとともに相談窓口にに関する情報を周知徹底した。

4 特別活動・部活動

① 教育活動の目標と方策

部活動の加入率をさらに増加させるよう取り組み、大会等の上位進出に向けた練習内容の充実を図り、部活動情報の積極的なホームページへの掲載を推進する。また、特別活動・部活動をととして生徒に活力ある学校生活を送らせ、人間関係や社会性を育む一助と成す。

- (1) 学校行事を充実させるとともに、部活動の加入率をさらに高めて活性化させ、生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。
- (2) 効率的な練習計画による活動、生徒の自主性を重視した三大行事（合唱祭・杉総祭・体育祭）の一層の充実と文化祭入場者数の増加に向けた取組を実践する。
- (3) 東京 2020 大会以降も継続していけるような小・中学生とのスポーツ・文化交流を行い、小・中学校との連携を深め、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。
- (4) 生徒会や部活動を中心として地域の行事へ積極的に参加し、ユネスコスクールとしての ESD 活動を推進して環境教育や美化・清掃活動の活発化を図るなどして社会性及び社会に貢献する姿勢を育む。

また、地域住民への施設開放や公開講座の開講をととして本校の教育資産の幅広い活用を期する。

募集・広報活動

効果的・効率的に教育方針、教育内容等を積極的に発信する。

- (1) 中学校及び塾を効率的に訪問し、本校の特色ある教育活動をPRする。
- (2) 学校説明会を年間3回以上（合同説明会を含む。）実施するとともに、夏季休業中に学校見学会及び部活動体験会を実施する。
- (3) 学校のホームページは、時を逃さず更新して積極的な情報発信を徹底する。
- (4) 近隣の公立小・中学校への出前授業・説明会、交流事業を計画的に実施する。
- (5) 在京外国人入学者選抜の実施をととして、あらゆる文化的背景がある生徒も本校に入学してよかったと思わせる指導を確立する。

また、「内にある外国文化交流」として、外国にルーツがある生徒の活躍場面を創生するために、外国文化紹介イベント等を企画する。

②自己評価

- (1) 中学校訪問は規模を縮小して実施した。
- (2) 学校説明会は、参加者数を増やして実施した。夏季休業中の学校見学会及び部活動体験会を予約制として実施した。
- (3) ホームページの更新は、300回以上行った。
- (4) 中学校への出前授業を計
- (5) このことについて杉総祭にて展示発表として実施した。

5 学校経営・組織体制

① 教育活動の目標と方策

企画調整会議を中心として各分掌内部及び各組織間の連携を強化し、カリキュラムマネジメントを適切に実施して円滑な組織運営を図る。

全ての教職員が学校運営への参画意識をもち、各立場における役割を確実に果たす。

また、学校における働き方改革推進プランに基づき、教職員の平日における在校時間を減少させるように共通認識をもつ。そのために、退勤時刻の打刻をととして教職員の在校時間を明確化し、時間外勤務時数が多くてかつ長期に渡る場合などについては、産業医との面接等を実施するなどして教職員の健康状況の把握に努め、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて取り組む。

- (1) 学校経営計画・分掌組織目標と個人目標の整合性を図り、課題を共有することにより意識を高める。
- (2) 企画調整会議で分掌と年次の連携を深め、課題を共有化し、協働体制を強化する。
- (3) 各分掌が年間計画・年間報告を作成して継続的な改善を目指す。また、拡大分掌会を開き、年次との情報共有及び協働体制を確立する。
- (4) 校務の手引きを更新し、さらに分掌業務内容の共通理解を深める。
- (5) 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、体罰の禁止や汚職等非行防止研修で服務規律の理解を深め、自己点検を実施し意識を高める。
- (6) 経営参画型経営企画室を目指し、関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援する。予算ヒアリングの充実と適正な予算編成及び執行を行う。また、施設設備の定期的な点検を行い、不備な箇所の早期発見、早期対応を心掛ける。

担当する業務については、前例をやみくもに踏襲するのではなく、業務内容を見直し、改善の余地があるものについては企画調整会議で検討するなどの意識改革を図り、「どうしたらもっと良くなるのか」を常に心掛けて業務を遂行する。

②自己評価

- (1) 課題について共有し、より良い学校づくりを推進した。
- (2) 分掌と年次に関する情報共有をさらに進める。
- (3) 拡大分掌会での課題共有をさらに進める。
- (4) 分掌業務の内容について理解をさらに深める。
- (5) サービスの厳正については、より厳しく周知する。
- (6) 経営企画室の学校参画について、引き続き改善を図る。

2 重点目標と方策

- (1) 生徒が毎日 60 分以上は家庭学習等を行うよう促すため予習や復習を前提とした授業を実践する。

【数値目標】

項 目	目 標	R4 実績
① 授業以外の学習時間 60 分以上	① 30%以上	① 16.8%
② 読書未読率の改善	② 20%以下	② 30%
③ 図書貸出冊数の増加	③ 一人年間3冊	③ 2.3 冊

- (2) 組織的にキャリア教育に取り組み、入学当初から目的をもたせて進路実現を図る。

【数値目標】

項 目	目 標	R4 実績
① 進路相談への肯定的評価	① 86%以上	① 77%
② 進路の第一志望達成率	② 86%以上	② 85%
③ 大学入学共通テスト受験者数	③ 80 名以上	③ 79 名
④ GMARCH 合格者数	④ 15 名以上	④ 0 名
⑤ 「産業社会と人間」「人間と社会」「課題研究」の肯定的評価	⑤ 96%以上	⑤ 79%

- (3) 時を守り 場を清め 礼を正す

【数値目標】

項 目	目 標	R4 実績
① 遅刻率の改善	① 1 日平均 1.0 人以下/HR	① 一年次 0.76 人 二年次 0.75 人 三年次 1.69 人
② 教室等のコロナ対策としての消毒の徹底	② 100%	② 100%
③ 登下校時や校内での挨拶の徹底	③ 80%以上	③ 70%

(4) その他

【数値目標】

項 目	目 標	R4 実績
① 海外留学生等の受け入れ	① 7 件以上	① 5 件
② 学力検査最終応募倍率	② 1.3 倍	② 1.23 倍
③ ホームページの更新回数	③ 320 回以上	③ 304 回
④ 東京都統一体力テスト	④ 東京都平均以上	④ 東京都平均以上
⑤ 杉総通信の年間発行回数	⑤ 10 回以上	⑤ 10 回
⑥ 部活動参加率（1，2 年次）	⑥ 90% 以上	⑥ 81%
⑦ 月当たり定時外勤務時間が 45 時間を超える教職員	⑦ 0 人	⑦ 17 人